

(8.2) 仙台都市圏における総合交通計画の策定手法について

東北地建
宮城県
仙台市
石川直幸
正員 ○高橋亞夫
中山泰志

1. まえがき

仙台都市圏、仙台市を中心とする半径約30Km圏では、「人の動き」に着目した交通実態調査を実施して、現在、土地利用構想および総合交通体系の整備・運用計画の立案を進めている。

今回、報告する内容は、総合交通計画の一構成部門である道路網計画ならびに道路網整備計画の策定手法について中間報告として概略とりまとめたものです。

2. 仙台都市圏における総合交通計画の立案プロセス

本都市圏における総合都市交通体系の計画策定のための調査全体計画を図-1に示す。

以下に将来道路網計画と整備計画立案プロセスの概要を述べる。

3. 将来道路網計画の立案プロセス

本都市圏における道路網計画の立案プロセスを図-2に示す。

(検討項目)

(i). 道路網計画の基本方針の検討

道路網計画の計画主題の認識、道路網基本パターンの構築、および計画手順等について検討を行なう。

(ii). 既定計画道路網体系の検討

先行年次道路網と既定計画路線の網構成としての適合を図る。

(iii). 将来道路網計画案の設定(配分対象道路網)

これまでの道路整備実績、最近の整備進歩状況等を勘案して計画年次の整備水準を想定し、設定している。

(iv). 将来交通量配分手法

高速道路利用交通は、道路公团算定の高速転換率式を参考に、転換率曲線法で配分し、一般道路利用交通には、均等5分割方式の容量配分を行なっている。

(v). 道路の機能分類および機能配置の検討

道路の機能分類については、最近、種々の分類規準が提案されているが、本都市圏では幹線と補助幹線の2分類とし、その定義づけと網構成としての機能配置の検討を行なう。

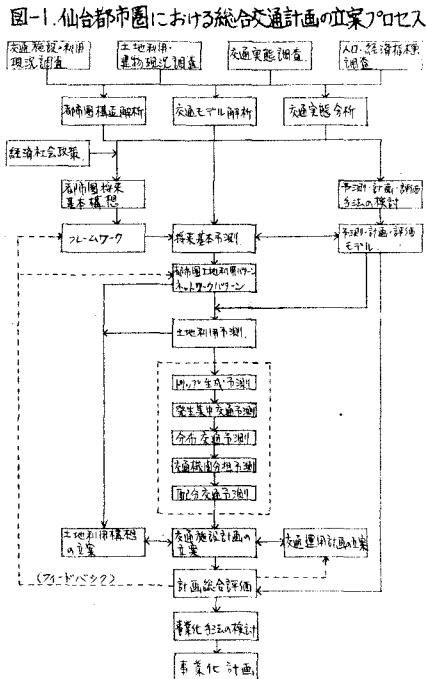
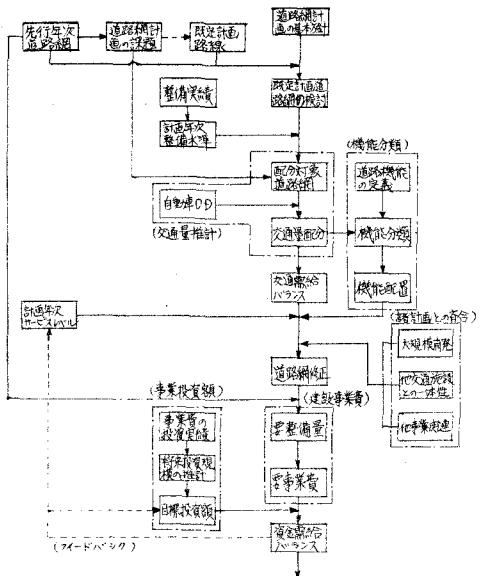


図-1. 仙台都市圏における総合交通計画の立案プロセス



(Vi). 交通需給バランスの検討

仙台市都心部を中心とする各方向、放射・環状両面、および主要路線等における交通需給検討を行なう。

(Vii). 諸計画との整合性の検討

(Viii). ネットワーク修正

(V)～(Vii)、および計画年次におけるサービスレベルを設定して都市圏全域、および同一機能における道路サービスの均一化を図るべくネットワークの修正を行なう。

(Ix). 資金需給バランスの検討

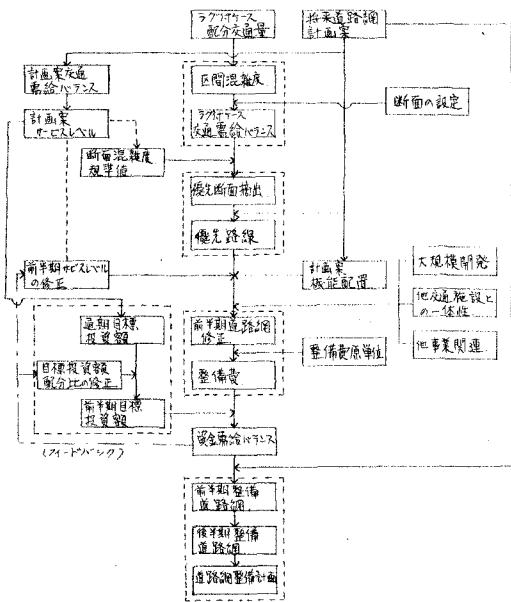
(Viii). で修正されたネットワークについて資金面での需給検討を行ない、計画年次サービスレベルあるいは目標投資額にフィードバックを行なうことにより道路網計画に反映せらる。

(X). 道路網計画の立案・評価

(Ix)のスクリーンを通過した計画案に対して、その評価と課題について整理・検討を行なう。

評価主体としては、利用者・事業者・地域住民・公共等の立場が考えられる。

図-3. 道路網整備計画の立案プロセス



4. 道路網整備計画の立案プロセス

本都市圏における道路網整備計画の立案プロセスを図-3に示す。

5. あひがき

総合交通体系計画におけるネットワーク構成の目的は、交通流動の体系的処理、市街地形成の誘導、および環境問題への対処の3つに大きく要約される。これらは、いずれも地域全体の合理性の追求というマクロ面での検討から、地区内でのあり方というミクロ面での検討までの内容を含んでいる。

本計画では、主に都市あるいは地域全体のマクロ面での検討に重点を置いていたため、地区内交通網の構成等のミクロ面での検討は十分とは云えない。このため、こうしたミクロ面での検討を行なうために、都市圏内の数地区を対象としてとりわけ、ケーススタディーとして検討を進めている。